

に私の記事が掲載されました。(以下の文章です)

内田秀之さん「日本三百名山」の 完全登頂を達成しました。

赤沼 健治 (長野県松川村)

人工内耳友の会埼玉支部に所属する、内田秀之さんが5月5日に尾瀬ヶ原の北方にある景鶴山(2004M)に登頂し、「日本三百名山」の完全登頂を達成しました。この景鶴山は現在植生保護の為に登山禁止になっています。しかし日本三百名山になっているので積雪期の登山は例外として大目にみられているようです。この山は二・三百名山に幾つかある「登山道が無く・ヤブで積雪期のみ登山可能」の山と同じで、登山口までの道路除雪が行われ、山に積雪のある数日～10日間ほどの短い期間に登山が限定されます。そんな難関の山に彼は5/4早朝家を出て、鳩待峠から50CM前後の雪に覆われた尾瀬ヶ原の雪原を歩き、竜宮小屋(山小屋)に宿泊。翌日は5時出発、雪上歩きで9:40分に景鶴山の山頂に到着。下山後再び竜宮小屋泊。5/6に鳩待峠に帰還しました。聴覚障害のハンデを乗り越えて、あしかけ44年かけての偉業に心から敬意とお祝いを申し上げます。

内田さんとの出会い 私は5年前、アシタのMLで埼玉県長瀨町の彼と知り合いました。登山・テニスなどの趣味が同じだったからです。以降個人的にもEメールを交換しあってきました。その時、彼は人工内耳の手術の直後でした。長い失聴期間があったので、手術後も彼の聞こえは良くありませんでした。そんな2009年の9月20日の夕方に彼と戸隠高原のキャンプ場で初めてお会いしました。翌日私と戸隠西岳(2053M)に登るためでした。当時私は「信州百名山」の完全登頂達成に挑戦中でした。その山に私は2度挑戦しましたが、いずれも途中で降雨になり引き返しました。足場の悪い難易度の高い山なので無理はできませんでした。3度目の挑戦に彼は同行してくれました。バンガローで彼と初対面の歓談をしました。この時すでに内田さんは300名山を240座(山)位は登っていました。凄い人だと尊敬しました。(耳にハンデがあったのに)手術後間もないリハビリ中だったので、ほとんど筆談中心でしたが。翌日は快晴、無事登頂を達成できました。翌年彼が挑戦中の二百名山である健脚コースの毛勝山(2414M)に同行登山しました。登山口の無人の山荘に前泊して歓談しましたが、リハビリと彼の努力でほとんど会話ができるほど聞こえが良くなっていました。「カーナビの音声が聞こえる」と彼が喜んでいたので印象的でした。翌日無事登頂を達成しましたが汗対策で二人とも人工内耳のプロセッサをはずしていたので、ゼスチャーでの意思疎通が多かったです。(私は手話ができないので) 景鶴山には私も同行登山の予定でしたが、白内障の手術と重なってしまい断念し、残念です。

{日本三百名山について}

文筆家で登山家でもあった深田久弥氏の最も著名な山岳随筆である「日本百名山」が1964年に新潮社から出版されました。1994年(平成6年)から翌年にかけてNHK衛星第2テレビで「日本百

名山」が放映されて、いわゆる「百名山ブーム」が中高年登山者中心に人気となりました。1978年には日本山岳会が日本百名山に200山を追加して「日本三百名山」を選定しました。百名山の登頂を達成した人を中心に「日本二百名山」・「日本三百名山」を目指す人達が増えてきました。しかし「日本百名山」はブームもあり、登山道なども整備された山が多いのですが、「日本二百名山」・「日本三百名山」には登山道が無く、積雪期でかつ麓までの道路が除雪される極短い期間にしか登れない山や登頂にかなりの時間と山中泊を必要とする健脚コースが幾つか含まれています。従って「ツアー登山」でも達成できる日本百名山登頂達成に比べて数段の難しさがあります。私の山友達にも「日本三百名山」を目指している人がいますが、彼はやっと半分位しか達成していません。体力は年々低下していきまますし、仕事をしていると時間も取れません。彼は来年3月に退職してもっぱら「日本三百名山完登達成」に向けての登山生活に入ります。そんな時間・経費・体力・登山経験等を必要とする難行を内田さんは達成されました。アシタのみでなく聴覚障害者・身体障害者の誇りでもあると思います。お疲れさまでした。おめでとう御座います。

{内田さんの達成までの経緯}

彼が登山を始めたのは24歳頃からとの事。その後仕事などの関係で登れなかった年もあったとか。43歳の時に百名山の登頂を決意する。(この時点で残り50山以上)会社務めでは長期の休暇も取れず、終業後に夜行列車で出かけ(登山ブームの頃は、山岳夜行列車に乗るのに、新宿駅の通路に2時間以上も前から並びながら座席が取れず列車の中では通路に座ったり、立ちっぱなしで一睡もできない状態で登山したとか)下山してから深夜帰宅又は朝帰りそのまま出勤するなどした。山小屋でも一つの布団に3・4人と寿司詰め状態で寝たとの事。百名山完登は平成7年10月14日に新潟・長野県境の雨飾山で達成する。快晴で鮮やかな紅葉を眺めながら登り、山頂からは360度の展望が広がり、上信越・北アルプスの眺めは総仕上げの山に相応しい感動的な最後を飾れたとの事。百名山を完登してから3年後に二・三百名山にも登るようになるが「登山道が無く積雪期しか登れない山」が8つあり、この時点では完登を果たそうと言う気持ちではなく、「名山と言われるような良い山に登りたい」との願望であった。以降コツコツ登山を続けて平成21年には完登まで63山残すのみとなり、「完登達成」を意識する。平成22年5月に最難関である、夏道の無い残雪期の「笈ヶ岳」(おいずるがたけ、1841M)を正味歩行11時間かけて制覇し完登への足掛かりを得る。同年北海道のカムイエクウシカウシ(通称カムエク、1980M)を制覇。この山は山中テント泊・ヒグマが多数棲息する・雪渓など最難関の山です。平成24年に、がけ崩れや天候で2度も計画が流れている山中2泊必要な超健脚コースの日高山脈の「ペテガリ岳」に登頂し二百名山を完登達成する。体力的にも後のない3度目の正直であった。彼の登山は単独行が多い。百名山では68山、二百名山では88山、三百名山では93山が単独行であった。芯の強い人だ。

{聴覚障害者の登山}

多くのハンデが伴います。まず登山口までの道路案内です。今では車があり「カーナビ」が目的地まで案内してくれますが。私は信州百名山挑戦中の1年間は(人工内耳の手術をするまでの)カーナビも買わなかったのが、道順を聞くのにとっても苦勞しました。登山途中や山小屋でも同室の人達と情報交換や会話ができずに淋しい思いをしました。彼は汗かきな為登山中は人工内耳を装着しないので鳥の声や沢の音などを聞きながらの登山が出来ず残念だと言っています。雪崩・落石・雷の音などが分からないので危険です。好きなテニス時も彼は装着しないととの事で「完全防水」のも

のが出来る事を切望しています。

彼の書いた「日本三百名山を完登して」がNPO法人みみより会の「みみより」誌 9・11月号に掲載されました。是非読んで欲しいと思います。

景鶴山頂の内田さん



毛勝山頂の内田さん（左）と私です。バックは劔岳。

